

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	メイソ相模原 ル・オージュ	階数	地上13F
建設地	相模原市中央区相模原三丁目278番3外	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	444 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年5月14日
敷地面積	2,959 m ²	作成者	株式会社長谷エコホーレション
建築面積	975 m ²	確認日	2015年5月14日
延床面積	9,270 m ²	確認者	株式会社長谷エコホーレション



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	71%
③上記+②以外の	71%
④上記+	71%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

音環境	3.1
温熱環境	4.8
光・視環境	3.5
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.8
耐用性	3.3
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

建物の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	N.

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	2.2
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化	4.1
地域環境	3.5
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 道路に沿って豊かな緑量を確保するとともに、アースカラーを基調とした外壁を用い、住宅らしい温かみのある景観の創出に努めた。		その他 ・既存の桜を極力伐採せず、維持することで地域の歴史性、環境の保全に配慮した。
Q1 室内環境 ・住戸の開口部には庇(一部)及びカーテンレールを設置し、日射への対応に配慮している。 ・部材にはF☆☆☆☆、VOC放出が極めて少ない建材を採用し、環境に配慮している。	Q2 サービス性能 ・共用部維持管理等級2、劣化対策等級3を取得予定。	Q3 室外環境(敷地内) ・相模原市景観計画区域の基準に基づく色彩配置としている。 ・相模原市基準及び景観計画で規定される基準以上の緑化面積を確保した。
LR1 エネルギー ・エコジョーズ採用により、エネルギーの有効利用を図った。 ・住戸の開口部は全て2方向面以上に面しており、有効な通風と採光が確保されている。	LR2 資源・マテリアル ・内装の更新性に配慮し、二重天井、二重壁を採用している。	LR3 敷地外環境 ・駐輪場200%を確保した上、バイク置場を設置することで周辺の交通負荷軽減に配慮した。 ・ディスプレイ処理槽を設け、生ごみの減量化に務めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される